

いたずらたぬき

昔々あったず。ある村に小さな寺があつたずもな。この寺にはお尚さんと小坊つこが居て、葬式や法事がない時は村の子どもと遊んだり勉強を見てけだり、村の困りごと相談にも乗ってけで、貧乏寺でも村の人とは仲良く暮らしていたず。したすけ村の子どもは誰でも寺の戸を「どんだん」と叩いては「子坊つこ、遊ぶべあ。勉強おへで！」と、寺の中さ入つてくるのだず。大人も「どんだん」と叩いては「お尚さん、赤飯上がれ。だんご仏様さ上げでけろ」つて寺き持つて来るのだず。

そんなある日の真夜中のごとだず。「どんだん」と、寺の戸を叩く音がしたず。お尚さんはびつくりして起きだすもな。「この真夜中に来るとは、村の誰かが死んだ知らせだ」と、戸口に走つたず。そして、「誰だ？何事起きだ？」とお尚さんは大きな声で言つたず。ところが何の返事もないし、戸を開けて外を見ても誰もいなかつたず。「ありや誰もない。我しの聞き違えかな」とお尚さんは寺の中に入つたず。

それから二、三日したら、又、真夜中に「どんだん」と戸を叩く音がしたず。お尚さんは今度は小坊つこと一緒に戸口さ走つて行つて「誰だ？何の用だ？」と声をかけて、戸を開けだず。やつぱり誰も居なかつたず。小坊つこは「お尚さん、おら、正体を突き止めてやる」つて言つたず。そして小坊つこは次の日から寺の外の小屋に宿つて寺の戸口を見張つていたずもな。そしたら月夜の明るい真夜中、一匹のたぬきが「このこと寺の板戸の前に来て止まらず。小坊つこは「何をすのかな？」と見ていたら、たぬきは急に立ち上がったと思つたらくると回つて背中を戸に押し付けたず。それから尾つ

ぼで戸を「どんだん」と叩いたず。お尚さんが中から「誰だ？用があつたら入れ」という声と足音を聞いたと思つたら、たぬきはさつと逃げていつたず。さあ、正体を見破つた小坊つこはお尚さんと相談して、たぬきをやつける計画を立てたずもな。

二、三日してたぬきのやつてくる気配を感じたお尚さんと小坊つこは、真夜中、寺の内側の戸の両側に立つたずもな。案の定、たぬきがかさこそと歩いて来たず。そしてたぬきが戸に背中を押し付け尾つぽで「どんだん」と叩いたず。お尚さんと小坊つこは次の「どんだん」と叩く音と同時に「バツ」と戸を両開きに開いたず。そしたらたぬきが「どんだん」と仰向けに倒れてきたず。「それつ」とお尚さんと小坊つこはたぬきを押しさえこんでしまつたず。お尚さんがたぬきに「なんで夜中に戸を叩くのだ」と聞いたら、「許してけろ。」

おらも村の人のように『どんだん』と戸を叩いて遊びたかつたのだ」と言つたず。それを聞いたお尚さんはたぬきの気持ちがあぐくて「良いもなも『どんだん』と戸を叩いて遊びに来てける。したども、夜中に来るのは許してける。寝不足は体に毒だからな」つて言つたず。

それからずもの、たぬきは昼間「どんだん」と尾つぽで戸を叩いて、来ては小坊つこや子ども達と遊び、お尚さんのお経を聞いて帰るようになったず。お尚さんもたぬきが入りやすいように、又、誰が来ても良いように、寺の戸を少し開けておくようにしたず。

どつとはれ



vol. **100** July 2023

contents 目次

- 05 YOKOGAO 拝見
- 05 野菜歳時記
- 06 well 創刊 100 号ありがとう! Present キャンペーン
- 07 クーポン
- 08 ランチ情報
- 12 八戸三社大祭ガイド 2023
- 15 はちのへ夏イベント 2023
- 16 タウンウォッチ
- 18 ビューティー & ヘルシー情報
- 20 ショッピング情報
- 22 夏のグルメ特集
- 28 はちのへ TAKEOUT Gourmet
- 31 食育エッセイ

ホームページ公開中

パソコン <http://www.webwell.jp>
 ケイタイ <http://www.webwell.jp/mobile/>



挿絵/久慈彩華